

せていただきました。初めての参加という事で、何か小学校か中学校の入学式の時のような、なんだか期待と不安の入り混じった、あの何ともいえない気持ちで会場に足を運ばせていただきました。

私が会場に到着したのは開始二十分前でしたが、会場はすでに多くの先生方でほぼ満席状態。会場からの熱気がこちらにも伝わり、静岡県の珠算の先生方のそろばんに対する熱い思いを感じるのと同時に、期待一色になり、今日の講習会の内容をぜひ自分のものにして帰ろうという、強い思いをもって臨むことができました。

【第一講座】

さて、第一講座は、荒木田富枝先生による「私の珠算指導法―指導のポイント―」。荒木田先生といえば、私が全国大会に出場するようになった中学生の頃から大変お世話になっていた先生で、教室にも何回かお邪魔させていただきました。また、全国大会では毎

回のように選手団をご引率、厳しく指導していただいたことを今でもはつきりと憶えております。

その先生が、すでに四十歳を超えた私の目の前で今でも現役バリバリで働かれています。私にとっても大切な指導方法も聞かせていただきました。私にうってつけの講演でした。

ご講演の内容は、前半は教室での指導方法の詳細、後半はなんと、先生が得意とされる「折り紙」教室でした。先生が「折り紙」の達人とは、大変失礼ながら全く存知あげませんでした。

まずは、前半の講演です。初歩指導から競技選手の育成方法に至るまで内容も多岐にわたり盛りだくさん、とても聴講しがいのある充実した内容でした。

この中で私が最も印象に残った内容として、冒頭にお話があった教室での指導方針に関する感想を述べさせていただきます。

〈指導方針〉

「常に子供の目線であれ」
「4級までは基本に忠実に」
「そろばんは計算の道具ではあるが、子供を計算の道具に仕上げてはいけない」

この三つの方針は亡くなられたお父様から引き継がれた方針とお話でしたが、一瞬私にずしりと重たい何か乗せられた感じがいたしました。

最初の二つの方針。これらは、私の中でわかつているつもりではいるのですが、授業が終わってから「今日の指導はダメだったな」と感じるものがよくあります。そんな脱力感に見舞われるそのときは、まさにこれらが出来ていなかったときではありませんか。

禅問答のようですが、当たり前のように思えるこれらの内容を指導方針とされているということは、実はこれらは当たり前のことではない、ということであると私は理解いたしました。この二つを実践することは非常に難しく、これらを実践できた教室だけが、地域から信頼される礎のしつかりとした教室に成長できるということ。先生

のご実績の陰には、このような方針があったということを知り、大変貴重なことを教えていただいたことに感謝するとともに、心の中にこれらをしっかりと刻み込ませていただきました。

最後の三つ目の方針は私を最もドキリとさせました。子供を計算の道具に仕上げてはいけない。非常に重たい言葉です。子供たちを指導する以上は、

どんだん上手に、もつともつと上手にといった具合に、どうしても珠算技能・暗算能力の向上ばかりに目が行ってしまっている自分がいます。その前に指導しなければいけないことはたくさんあり、それができていないことがわかっていながらもわかかわらず、実績がおろそかになってしまっています。

この方針を聞いたとき、私の脳裏には松下幸之助の言葉、「ものを作るま



えに人をつくる」がよぎりました。言葉こそ違うものの、内容は非常に似ています。(大変恐縮ですが自らを棚に上げさせていただきます) 私はそろばんが出来た子を作る前にその子の人としての成長をサポートしてあげなければいけないと感じております。人として立派に成長し、その上でそろばんが出来ることではじめて、そろばんを習った意味が生まれてくるのであろうかと思えます。この方針を聞いた私は深く反省し、明日からの授業でさっそく実践していかなければと強く感じることができました。

休憩をはさんでの後半は、内容もがらりと変わり、なごやかなムードの中での「折り紙教室」。